

2025 年度 学校関係者評価委員会 開催記録

開催日時 2025 年 6 月 10 日（火）14：00～16：00

開催場所 専門学校 文化デザイナー学院 6 階プレゼンテーションルーム

委員数 11 名

出席委員 10 名

株式会社光和印刷 制作部 部長 岡田 寛和

アセビデザイン 竹越 萌野（卒業生）

my-design 羽持 舞（卒業生）

水戸ステーション開発株式会社 取締役総務部長 川野 重匡

株式会社フクダ 取締役 鈴木 香織

有限会社中村写真館 取締役 中村 理香子（卒業生）

茨城インテリアコーディネーター協会 会長 伊藤 彩

株式会社関根工務店 代表取締役 関根 貴雄

株式会社根本建築設計事務所 阿久津 裕司（卒業生）

株式会社 andHAND 建築設計事務所 代表取締役 飯島 洋省

学校職員出席 5 名

学校法人リリー文化学園 本部長 渡邊 忠

専門学校文化デザイナー学院 学校長 荒井 真次

専門学校文化デザイナー学院 教務部長 川上 大輔

専門学校文化デザイナー学院 教務副主任 深谷 由貴

専門学校文化デザイナー学院 教務副主任 黒須 菜穂子

委員会次第

■校長挨拶

■2024 年度修了制作展プレゼンテーション&作品画像

- ・企業・団体等 連携課題実施計画書

■報告事項

- ・2024 年度活動報告資料

①委員名簿

②学校運営

③教育活動

④学修成果

⑤学生の受入れ募集

⑥社会貢献・地域貢献

- ・職業実践教育課程の基本情報について「様式 4」

(各委員会意見の活用状況・連携課題実施報告書)

- ・各委員会 開催記録の報告について

・「2025 年 2 月 8 日・15 日 第 2 回教育課程編成委員会／学校関係者評価委員会」

■学校評価（2023 年度）の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

■授業見学

■2024 年度自己点検・自己評価報告書

■協議事項

- ・評価項目に関する評価

①教育理念・目標

②学校運営

③教育活動

④学修成果

⑤学生支援

⑥教育環境

⑦学生の受入れ募集

- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献
- ⑪国際交流

■本部長挨拶

(委員会の開催)

荒井校長より挨拶。

■報告事項

2024 年度修了制作展、2024 年度の活動報告、職業実践専門課程の基本情報「様式 4」について、各学科（広告プロモーションデザイン学科、ファッションビジネス学科、建築設計デザイン学科、キャリアアップデザイン学科）の授業内容、取り組みの報告。前回委員会の開催記録・活用状況、前回の学校評価結果等を川上教務部長より報告。

■授業見学

各学科の授業を見学後、各委員より評価をいただいた。

■協議事項

昨年度の自己点検・自己評価、今後の改善方策等について川上教務部長より説明。各委員が学校の自己点検・自己評価が正当なものかどうかを評価項目ごとに評価した。

評価基準 1 教育理念・目的

○評価表より委員意見

（竹越委員）技術的な事だけではなく、考え方やプロセス、コミュニケーションの取り方等、実践的に授業に組み込まれていると感じた。社会の中で必要とされる力を身に付けるカリキュラムが増えている。

（羽持委員）入学者が増えている中、1 人ひとりを大事にする教育はより大切なものだと感じる。自己形成中の学生にとって親身になってくれる学校職員の存在が学生の成長にも繋がると思う。改めて教育理念や方針に感銘を受けた。

（川野委員）とても良い教育理念だと感じた。

（中村委員）AI の進化が加速している時代なので、積極的に取り入れることはとても良いと思った。

（関根委員）生成 AI を実践的に使いこなすこと、自分自身の感性を磨くことの両方を目指してほしい。

（飯島委員）4 の保護者の周知については、どのように行われているかが見えにくかった。工業分野、理工農系学部の届け出は良いと思った。それに伴い、カリキュラムも発展があると良いと思う。

評価基準 2 学校運営

○評価表より委員意見

（川野委員）教職員の働く環境はとても大切だと思う。引継ぎ、業務改革、働き方改革、職場改革を進めてほしい。

（中村委員）AI 技術や最新のシステム等を上手く活用し、教務や講師への負担を軽減することは最も大切なことだと思う。人力を使わなくて良いところ、使うべきところを見極めていくことが最終的に学生への教育に繋がっていくと思う。

（関根委員）どの業界も人手不足になってくるので、効率化はとても重要。やるべきこと、やらなくても良いことの判断も必要になってくる。

（阿久津委員）仕事の効率化として AI を積極的に導入することはとても良いと思う。さらに、補助ツールとして、学生のやる気やメンタル面でも使用しても良いと思う。この評価表の委員特記事項のデータ化に関しても、委員が HP やメールで送れば効率化にも繋がると思った。

評価基準 3 教育活動

○評価表より委員意見

（岡田委員）AI やフリーのアプリで素人でもデザインできる状況で、教員のレベルアップを図り標達成に注力していると感じた。

（竹越委員）AI の活用やリテラシーについて授業の中で学べる機会が作られている。社会に出る前に AI の活用や向き合い方を身に付けることは非常に大切だと思う。

（羽持委員）AI や ChatGPT が仕事の現場でどのように使われているのかを学ぶと同時に AI 生成の記述やリテラシー、コンプライアンスをセットで理解できると良いと思う。その反面、生成 AI の機能にばかり頼らず、ゼロからパスやアナログ（手描き）でのロゴやグラフィックが作れることもオリジナリティの面で大切。ペンタブやタブレットで描く学生も増えたが、そのせいかパスが扱えない学生も増えている。

（鈴木委員）講師と学生の距離が近く、共感度の高い授業だった。かるた制作の授業で、チーム内でチームリーダーを決めない、書記を決めない、というルールが素晴らしいと感じた。コミュニケーション力と主体性が高まる内容で、デジタル、AI 化の中で人とのコミュニケーションの本質を学べると感じた。

（関根委員）企業・団体等の連携授業は、生の意見が聞けるので、学生には刺激になると思う。

（阿久津委員）教える側が、何が目的か何が必要かをしっかり理解してることがよく分かった。

（飯島委員）建築設計デザイン学科を工業分野、理工農系学部へ移行をしたのであれば、学生には嫌がられるのかもしれないが、建築士対策でなくても、それに準じた科目があった方が良いのではないか。また、学生満足度アンケートのあり方も、楽しい内容の授業と学生が苦手とする学問的な授業とでは評価が分かれるため、聞き方や受け取り方にも工夫が必要と考える。

評価基準 4 修学成果

○評価表より委員意見

（竹越委員）学生の技術力、デザインセンスはとても向上している。コミュニケーションスキルやプレゼン力がさらに向上すればより幅広い活躍ができると思う。個々の性格もあるが、社会に出る前に色々な場数がふめると良いと感じた。

（羽持委員）就職活動という括りの中では、オンライン面接や Zoom の使い方、マナーなどの指導は小さな事かもしれないが、とても丁寧な指導だと感じた。

（鈴木委員）学生時に資格を取得することのメリットや将来の展望など、先輩や社会での例を用いて伝えていくとより積極的になると感じた。

（中村委員）現代の学生は、内気な人が多いイメージがある。一定のグループに留まる傾向が強いため、様々な人とコミュニケーションを取る機会がもっと増えると良いと思う。

（関根委員）嫌味にならない自己アピール力は、社会に出た時に有利になることもある。退学者の理由は、きちんと確認を行った方が今後の対策になる。

（阿久津委員）資格取得として、総合資格と提携して教えられるのは良い。必要なところに外部からの力を入れることは必要。

評価基準 5 学生支援

○評価表より委員意見

（羽持委員）学生の健康管理については体調面だけではなく精神面もとなると大変だと思う。また学内での事は管理できると思うが、学外になるとなかなか難しいのではないかと感じた。経済的な支援活動については細分化されており、とても助かる動きだと思う。

（鈴木委員）健康管理アプリを導入してはどうか。直接だと言にくいことも早期発見・解決しやすい可能性がある。

（関根委員）経済的な支援体制の整備は、最も重要である。

（飯島委員）保護者との連携が見えにくかった。

評価基準 6 教育環境

○評価表より委員意見

（竹越委員）人数が多いクラスでは、授業に後れを取ってしまう学生のフォローが課題になると思う。

（羽持委員）学生にとって学ぶ授業が多い事は大きなメリットだと思うが、就職活動をする3年生にとってインターンに行ける曜日が1日しかないのはなかなか厳しいのではないかと感じた。

（中村委員）設備が充実していると感じた。

（関根委員）防災計画は、命に関わることなのでしっかり対応してほしい。避難訓練は、緊張感を持たせることにも必ず毎年実施してもらいたい。

（阿久津委員）見学した教室では、暗い部屋でパソコン作業を行っていた。プロジェクターのためだと思うが、これが良い環境か疑問に感じた。コストはかかるが、タスク・アンビエント照明等を検討しても良いと思う。防災に関しては、避難訓練は良いが、その後学生が自宅に帰るまでのシミュレーションを入れるとさらに良いと思った。

評価基準 7 学生の受け入れ募集

○評価表より委員意見

（岡田委員）体験入学会と高校訪問の回数はかなり多いと感じる。

（竹越委員）学生数が伸びている事は素晴らしい。デザイン学校の学生数が増える事は業界全体の人口が増える事にも繋がるので嬉しく思う。

（中村委員）高等学校や外部へ出向くことは大切だと思う。少しでも“文化デザイナー学院”を知ってもらう機会作りが重要だと感じた。

（関根委員）総合資格学院との提携という新しい取り組みには、告知の強化を進めた方が良いと思う。

（飯島委員）建築士特待生推薦について、いまいち内容が分からなかった。高校訪問、説明会の数は素晴らしいと思った。

評価基準 8 財務

○評価表より委員意見

委員意見なし

評価基準 9 法令等の遵守

○評価表より委員意見

（竹越委員）AI の使い方、特に AI を使う事のリスクを学べる事はとても良い。

（川野委員）学生の将来に向けて著作権法は大事なので取り扱いについてしっかり教えてほしい。

（中村委員）個人情報や著作権など、社会に出てからも今後必要なものになるため、学生一人ひとりがしっかりと理解し、学べる場は大切だと思った。

（関根委員）個人情報保護と著作権については、繰り返し何度でも教えた方が良いと思う。

評価基準 10 社会貢献・地域貢献

○評価表より委員意見

（岡田委員）連携する企業・団体が増えている。地道な活動が成果に繋がっている。

（竹越委員）企業との連携授業が充実しており、非常に実践的で良いカリキュラムが多いと感じた。学生の作る作品もレベルが高いので協力企業にとってもメリットがあると思う。

（鈴木委員）これだけ多くのイベントに関われることが素晴らしいと思う。

（中村委員）様々な地域や企業・団体との連携は、お互いにとって良い刺激になり良いと思った。

（関根委員）企業・団体との連携は、社会貢献・地域貢献に必ず繋がっていると思う。

（阿久津委員）各企業から依頼をされる側になり、地域に根付いた学校になっている。

各評価項目の評価終了。

渡邊本部長より閉会挨拶。

委員会終了。

なお、本日の審議事項については所要の手続きを経て教務会議にて報告する。

上記の通り確認する。

2025 年 6 月 30 日

学校法人 リリー文化学園
専門学校 文化デザイナー学院
校長 荒井 真次

2025 年度 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 1 教育理念・目的	◆継続的に対応 対象：全学科全学年 授業：修了制作に関わる授業、キャリアデザインに関わる授業
①(竹越委員) 技術的な事だけではなく、考え方やプロセス、コミュニケーションの取り方等、実践的に授業に組み込まれていると感じた。社会の中で必要とされる力を身に付けるカリキュラムが増えている。 ②(羽持委員) 入学者が増えている中、1 人ひとりを大事にする教育はより大切なものだと感じる。自己形成中の学生にとって親身になってくれる学校職員の存在が学生の成長にも繋がると思う。改めて教育理念や方針に感銘を受けた。 ③(川野委員) とても良い教育理念だと感じた。 ④(中村委員) AI の進化が加速している時代なので、積極的に取り入れることはとても良いと思った。 ⑤(関根委員) 生成 AI を実践的に使いこなすこと、自分自身の感性を磨くことの両方を目指してほしい。 ⑥(飯島委員) 4 の保護者の周知については、どのように行われているかが見えにくかった。工業分野、理工農系学部への届け出は良いと思った。それに伴い、カリキュラムも発展があると良いと思う。	①各連携課題ではクライアントからのレクチャーや体験活動、フィールドワークなどを行い、現状把握→情報収集・分析→課題設定→解決案のプロセスを経て学習を進めている。1 年次はデザインの考え方をしっかり体得できるように課題のボリュームを整えている。 ②③多様な考え方を受け入れる時代になっている。個別最適化された教育を行っている学校もあり、ひとりひとりに目を向けていくことはますます重要である。本校でも自己発見プログラムを実施し、個々の価値観や得意なこと、好きなことを掘り下げ、それぞれにあったキャリアを描けるような指導を行っている。 ④⑤AI を使うことのメリットは、効率化と技術を補うことに長けている点であり、注意しなければならないことに、均一化や同質化であることを理解した上で、道具として使いこなすことが大切である。意思決定や責任は人にあり、そこには必ず感性が大切になってくるので、考えることや、課題を捉えどのように解決するかというプロセスを教えることは重要であるとする。 ⑥近年高校在学時に参加する体験入学会には、保護者の参加率が高くなっている。高校の指導でも、積極的に保護者と一緒に参加することを促しており、入学前の段階から本校の教育活動や特色についても理解を深める機会となっている。また、体験入学会では、保護者だけを対象に説明をする時間も設けており、保護者にとって重要な学費や奨学金について詳しく伝えている。入学後は 1 年次に保護者説明会を実施し、学校生活を送る上での基本的な事項を説明する機会を設けている。また、毎年開催する修了制作展は、在学するすべての保護者に案内を出して、教育活動を見ていただけるようにしており、多くの保護者が来場している。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 2 学校運営	◆継続的に対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：
⑦(川野委員)教職員の働く環境はとても大切だと思う。引継ぎ、業務改革、働き方改革、職場改革を進めてほしい。 ⑧(中村委員)AI 技術や最新のシステム等を上手く活用し、教務や講師への負担を軽減することは最も大切なことだと思う。人を使わなくて良いところ、使うべきところを見極めていくことが最終的に学生への教育に繋がっていくと思う。 ⑨(関根委員)どの業界も人手不足になってくるので、効率化はとても重要。やるべきこと、やらなくても良いことの判断も必要になってくる。 ⑩(阿久津委員)仕事の効率化として AI を積極的に導入することはとても良いと思う。さらに、補助ツールとして、学生のやる気やメンタル面でも使用しても良いと思う。この評価表の委員特記事項のデータ化に関しても、委員が HP やメールで送れば効率化にも繋がると思った。	⑦多様な学生の対応をする中では、家庭環境や人間関係、病気などプライベートな部分にも深く立ち入ることもあり、教職員の心理的な負担も決して軽くないと感じる。年間で計画している代休は必ず取得するようにしており、そのためには業務を計画的に進めて管理していくことが重要である。イベントや行事に関しては、毎月のリーダーミーティング、毎週のキャリアミーティングの中でスケジュールを管理している。 ⑧⑨業務管理、出席管理、データ提出、面談記録など近年は効率化を積極的に進めている。これらのメリットとしては、学生指導の時間を確保することであり、その目的を見失わないように進めていきたい。慣習的になっている業務も定期的に見直す機会を設けて、時にはやらなくても良いと判断をすることも必要である。 ⑩様々なツールが今後も出てくると思うので、業務の軽減や指導のメリットが生まれるものは、費用対効果を検証する必要はあるが、積極的に検討をしていきたい。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 3 教育活動	◆継続的に対応 対象：学校運営・全学年講師 授業：
⑪(岡田委員) AI やフリーのアプリで素人でもデザインできる状況で、教員のレベルアップを図り目標達成に注力していると感じた。 ⑫(竹越委員) AI の活用やリテラシーについて授業の中で学べる機会が作られている。社会に出る前に AI の活用や向き合い方を身に付けることは非常に大切だと思う。 ⑬(羽持委員) AI や ChatGPT が仕事の現場でどのように使われているのかを学ぶと同時に AI 生成の記述やリテラシー、コンプライアンスをセットで理解できると良いと思う。その反面、生成 AI の機能にばかり頼らず、ゼロからパスやアナログ(手描き)でのロゴやグラフィックが作れることもオリジナリティの面で大切。ペンタブやタブレットで描く学生も増えたが、そのせいかパスが扱えない学生も増えている。 ⑭(鈴木委員) 講師と学生の距離が近く、共感度の高い授業だった。かるた制作の授業で、チーム内でチームリーダーを決めない、書記を決めない、というルールが素晴らしいと感じた。コミュニケーション力と主体性が高まる内容で、デジタル、AI 化の中で人とのコミュニケーションの本質を学べると感じた。 ⑮(関根委員) 企業・団体等の連携授業は、生の意見が聞けるので、学生には刺激になると思う。 ⑯(阿久津委員) 教える側が、何が目的か何が必要かをしっかり理解していることが	⑪講師・教職員も経験や前例がないことに直面する時代になってきている。それに対応するためには、教える側もレベルアップすることが求められる。年間 2 回行われる講師会では毎回研修を実施しており、その中では、先進的な事例や効果的な指導法の共有を行っている。 ⑫⑬AI はクリエイティブ業界にとっては切り離せないものになっている。AI をデザインプロセスのどの段階でどのように活用し、レベルアップにつなげていけるかが大切で、AI に頼るだけでなく、真偽の判断や使う上でのモラルなどの内容は基本方針を定め学生に周知している。近い将来には、当たり前 AI を使う時代が訪れた時に、いかにオリジナリティを出せるかが重要になってくるので、すでに講師会の中では、学生のもつ独自の視点を磨き、意思決定をする指導についても研修を行っている。また、手描きによる表現は、個々の感性や思考が直に表れる創造の原点であり、学生一人ひとりのオリジナリティを育むうえで欠かせない要素と位置づけている。アナログとデジタル、双方のアプローチを行き来する中で、学生一人ひとりのオリジナリティを深め、表現力を多角的に育てていく必要がある。 ⑭バーチャルや AI の発展した技術を取り入れることは大事だが、仕事におけるコンペや競合他社との比較の中では、最終的に人の心を動かせるのは人であると考えている。デジタルの技術で表現力を補うことはできるが、プレゼンテーションやコミュニケーションをとる場面では、その人らしさや他者を思いやれる心はより重要になってくると思うので、授業でのグループワークや学校行事の中で他者とコミュニケーションをとる体験も大切にし、学生の自分らしさが磨かれると良いと考える。 ⑯年間 2 回の講師会の中では、先進事例を共有することも行っており、常に新しい動きを把握す

よく分かった。

⑰(飯島委員)建築設計デザイン学科を工業分野、理工農系学部へ移行をしたのであれば、学生には嫌がられるのかもしれないが、建築士対策でなくても、それに準じた科目があった方が良いのではないか。また、学生満足度アンケートのあり方も、楽しい内容の授業と学生が苦手とする学問的な授業とでは評価が分かれるため、聞き方や受け取り方にも工夫が必要と考える。

ることに努めている。リクルートやコンサルタントは情報力に優れているので、取捨選択しながら学校運営の改善を行っていきたい。

⑰理論を学ぶと単なる「方法」ではなく、「仕組み」や「原理」を知ること、初めての課題にも自分の頭で考えて応用できるようになり、プレゼンや議論、レポート作成など、社会で求められる論理的思考力の土台となると思っている。そのような科目があることで本学生がさらにレベルアップ目指せると感じる。一方で、基礎学力の面では幅広い偏差値層の学生が在籍しているので、どのように授業を進めていくかは工夫が必要である。

学生満足度アンケートの内容については、捉え方を注意しなければならないと感じる。座学の科目と実習の科目では質問内容を変えるなどの対応はすでに行っているが、苦手科目については、良い・悪いといった軸でなく、どうしたらもっと理解が深められるか?といった内省や成長につながるアンケートになるのも良いと思う。学生の良い・悪いの評価に一喜一憂するのではなく、その背景や要因を丁寧に読み解き、教育方法やサポート体制を見直すための改善の材料として活用していくことが、今後ますます求められる。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準4 修学成果	◆継続的に対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：就職活動・資格取得に関わる授業
⑬(竹越委員) 学生の技術力、デザインセンスはとても向上している。コミュニケーションスキルやプレゼン力がさらに向上すればより幅広い活躍ができると思う。個々の性格もあるが、社会に出る前に色々な場数がふめると良いと感じた。 ⑭(羽持委員) 就職活動という括りの中では、オンライン面接や Zoom の使い方、マナーなどの指導は小さな事かもしれないが、とても丁寧な指導だと感じた。 ⑯(鈴木委員) 学生時に資格を取得することのメリットや将来の展望など、先輩や社会での例を用いて伝えていくとより積極的になると感じた。 ⑰(中村委員) 現代の学生は、内気な人が多いイメージがある。一定のグループに留まる傾向が強いため、様々な人とコミュニケーションを取る機会がもっと増えると良いと思う。	⑬企業・団体等と連携する課題では、必ずプレゼンテーションの機会を設けている。はじめて会う人に自分の考えを伝える経験は、自分の考えを正確に言語化する力や論理的思考力など、社会で求められる人間力の向上につながり、就職活動においても役立つと考える。 ⑭教育現場においては、学生一人ひとりに丁寧に寄り添い、伴走する姿勢が非常に重要である。特に目標が明確でない段階や、進路に迷いがある時期には、教職員の声かけや継続的な支援が、学生にとって進む方向を見つける手がかりとなる。こうした丁寧な関わりは、安心感や信頼を生み、学生の意欲を引き出す土台となる。一方で、教育の最終的な目標は、学生が自らの意思で考え、判断し、行動できる「自走力(自己主導性)」を身につけることにある。そのためには、どこかの段階で支援の手を少しずつ引き、学生が自分自身で選択し、失敗しながらも成長していく機会を意識的に設けていく必要がある。 ⑯資格に対して手当を支給するなど、社員のスキルアップを積極的に評価・支援する企業も多く存在する。資格は就職活動におけるアピール材料となるだけでなく、就職後に実際に業務を行ううえでの「信頼」につながる重要な要素でもある。また、授業で学んだ知識や技能がどれだけ定着しているかを確認するうえでも、資格取得は効果的な指標となる。こうした背景を踏まえ、学生に対しては、資格取得が単なる目標ではなく、将来の仕事や社会的な信頼、そして自身の学びの振り返りにもつながるという意義を、授業や面談などを通じて丁寧に伝えていく必要がある。 ⑰本校では、学生が価値観の異なる仲間と協働しながら実践的な課題に取り組むことも実施している。たとえば、ファッションビジネス学科では、3 年次の修了制作において、学生自らがファッションショップを企画・立案し、クラス全員で一つの実店舗を作り上げる。このプロジェクトでは、1・2 年生も販売スタッフとして参加し、9 日間の店舗営業を通して学年間の連携と現場での対応力

②(関根委員)嫌味にならない自己アピール力は、社会に出た時に有利になることもある。退学者の理由は、きちんと確認を行った方が今後の対策になる。 ③(阿久津委員)資格取得として、総合資格と提携して教えられるのは良い。必要なら外部からの力を入れることは必要。	を実践的に育んでいる。 建築設計デザイン学科では、前期コミュニティデザインの授業においては、グループワークを取り入れ、学生同士がまちづくりの方向性について議論しながら協働的に案をまとめ上げる。 また、広告プロモーションデザイン学科では、写真・雑誌編集の授業を通じて、クラス全体で一冊のフリーペーパーを制作している。学生は取材・編集・デザイン・発行までを分担しながら、集団での創造的アウトプットを実現しており、責任感や協調性、表現力を高めている。こうした取り組みを通して主体性を育み、一歩前へ出ることができる人材になれると良いと考えている。 ②退学者は、随時終礼で状況の報告と対応方法の検討を行っている。最終的に退学となった場合にも退学調査書を作成し、状況整理と会議などで振り返りを実施している。また、退学の相談の過程では、保護者との面談も必ず行い、意思の確認も行う。 ③学内のリソースだけで完結させるのではなく、企業や地域団体、外部の専門家など、特定の領域で強みをもった外部の力をうまく取り入れていきたいと考えている。総合資格学院とは、2025年度より卒業生に対して建築士受験講座が特別な価格で受講できたり、在学中のインテリアコーディネーター資格対策では模擬試験や教材を提供してもらっている。そのほかにも、ハローワークには毎年2年生を対象とした就職活動のレクチャーをお願いしている。授業運営、産学連携、学生の心のケアなど様々な場面が想定できるので検討していきたい。
--	---

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 5 学生支援	◆継続的に対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：
②④（羽持委員）学生の健康管理については体調面だけではなく精神面もとなると大変だと思う。また学内での事は管理できると思うが、学外になるとなかなか難しいのではないかと感じた。経済的な支援活動については細分化されており、とても助かる動きだと思う。 ②⑤（関根委員）経済的な支援体制の整備は、最も重要である。 ②⑥（鈴木委員）健康管理アプリを導入してはどうか。直接だと言にくいことも早期発見・解決しやすい可能性がある。 ②⑦（飯島委員）保護者との連携が見えにくかった。	②④⑤学費猶予の制度は4年以上の実績があり、制度の利用者も増加傾向で、独自の魅力になっていると感じる。入学辞退の理由としては、経済的な理由がもっとも多く、高校在学時に奨学金の予約手続きを行うことで、通常 1/2 分納までの対応のところ、1/4 まで細分化できることや、減免対象者は残額分のみの納入で入学手続きが可能になるなど学費納入が柔軟になり、負担を分散することができる。体験入学会では、保護者向けの説明の中で各種奨学金制度の紹介や、学費猶予制度について伝えている。 ②⑥精神面のケアは年々増えてきていると感じる。小さな心の変化が起こったときに、すぐに対応できれば良いが、学生が言い出せなかったり、隠してしまうときもあり、欠席や課題提出の遅れなど表面化したときには問題が大きくなっていることが多く、また、そこまでのスピードが速くなっているように感じている。学生とのコミュニケーションは年間 2 回の個人面談を通して、全員と個別で話す機会を設けている。今後の見通しとしては、アプリなどの ICT ツールを活用することも方法の一つで、学生の心の状態や日々の様子をより気軽に共有できる仕組みを整えることも、有効な手段の一つと考えられる。学生の気持ちを言語化するハードルを下げるとともに、教職員側も早期の変化に気づきやすくなる可能性がある。 ②⑦保護者には入学時に開催する保護者説明会の中で学科担当教務を紹介している。対面で開催しているので、お互いの顔が見えコミュニケーションが取れる機会になっている。そういった場面では、学校生活において支障になるような病気や障害、性格などを共有できるようにしている。また、1 年次は前期・後期の 2 回保護者に成績表を送付するなど学校の状況を伝え、単位未修得となった際には、必ず担当から保護者へ連絡をしている。その他にも欠席が続いた場合や学習に困難が見られる場合には、早い段階で保護者に連絡を取り、面談を実施している。修学状況に問題がない場合は多いが、保護者の影響は学生の退学に直結するため、いざという場面ではしっかり連携が図れる関係づくりをしておくことは重要であると考えている。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 6 教育環境	◆継続的に対応 対象：学校施設・全学科全学年 授業：全授業
㊸(竹越委員)人数が多いクラスでは、授業に後れを取ってしまう学生のフォローが課題になると思う。 ㊹(羽持委員)学生にとって学ぶ授業が多い事は大きなメリットだと思うが、就職活動をする3年生にとってインターンに行ける曜日が1日しかないのはなかなか厳しいのではないかと感じた。 ㊺(中村委員)設備が充実していると感じた。 ㊻(関根委員)防災計画は、命に関わることなのでしっかり対応してほしい。避難訓練は、緊張感を持たせるためにも必ず毎年実施してもらいたい。 ㊼(阿久津委員)見学した教室では、暗い部屋でパソコン作業を行っていた。プロジェクトのためだと思うが、これが良い環境か疑問に感じた。コストはかかるが、タスク・アンビエント照明等を検討しても良いと思う。防災に関しては、避難訓練は良いが、その後学生が自宅に帰るまでのシミュレーションを入れるとさらに良いと思った。	㊸技術指導の中心の授業では、学生数に応じて講師+1名サポートをつける対応をとっている。特に遅れがちな学生へのフォローを行うことで、授業全体の進行が遅れないようにしている。また、サポート講師は卒業生も多く、身近な目標となることや、講師以外の選択肢や考え方を学ぶことにつながる。 ㊹専修学校卒業者に付与される専門士の基準や勤労学生控除といった学校生活を送る上での様々な支援を受けるための目安としては、年間800時間という目安がある。それを超えるカリキュラムを本校は設計しているが、一方で春休み・夏休みなどまとまった休みもあるため、そのような時間を有効活用してもらいたい。 ㊺私立学校の設備に対しては、国や自治体の助成金制度がいくつかあるが、大規模な改修・改築工事等が対象となる。ICT関係の助成金も近年は増えていると感じる。昨年度は、民間の助成金制度を活用し、職業用ミシンの購入の補助を受けた。 ㊻避難訓練は毎年必ず年度当初に実施している。有事を想定し、講師の先生方も含め避難誘導経路を理解するために、授業が行われている時間を使っている。非常ベルの鳴動や消火訓練など緊張感をもたせるように工夫し、また車イスなど配慮が必要な学生の対応方法も把握している。 ㊼現在各教室に大型液晶モニターの導入を進めている。利便性も考慮し必要に応じて2台設置するなど教室環境に合わせて対応をしている。残りは4教室設置を残している。平行して、机・イスの入れ替え、ロッカーの入れ替えなど長期的な計画を立てて、学習環境が良くなるように設備投資を行っている。また、あまり使用頻度が高くなかった給湯室を授業で学生がリノベーションし、使い勝手の良い空間にするなど、既存の設備の見直しも行っている。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 7 学生の受け入れ募集	◆継続的に対応 対象：学校運営 授業：
③③(岡田委員)体験入学会と高校訪問の回数はかなり多いと感じる。 ③④(竹越委員)学生数が伸びている事は素晴らしい。デザイン学校の学生数が増える事は業界全体の人口が増える事にも繋がるので嬉しく思う。 ③⑤(中村委員)高等学校や外部へ出向くことは大切だと思う。少しでも“文化デザイナー学院”を知ってもらう機会作りが重要だと感じた。 ③⑥(関根委員)総合資格学院との提携という新しい取り組みには、告知の強化を進めた方が良いと思う。 ③⑦(飯島委員)建築士特待生推薦について、いまいち内容が分からなかった。高校訪問、説明会の数は素晴らしいと思った。	③③④⑤高校教諭は異動も多く、持ち上がり制で学年ごとに関係する先生も変わるので学年ごとにコミュニケーションをとることが大切である。また、18 歳人口は 2025 年を境に緩やかに減少していく中で、高校生の進路状況としては、大学進学割合が増えている傾向であり、専門学校として選ばれる学校になるためには、高校との関係を築くことも価値につながる。現在水戸周辺の高校 2 校では本校の専任講師が授業を行っており、毎年入学者が多い状況である。その他にも、文化祭の指導に派遣するなど高校からの要望には可能な限り応えている。そのほかの高校からも、講師派遣や新しいカリキュラムを設計する相談を受けるなど、地元唯一のデザイン学校という立ち位置が認知されていると感じる。 ③⑥5 月に実施している高校訪問で持参する学校ポスターの内容を見直し、今年度は総合資格学院との連携や建築士特待生推薦を告知する内容とした。総合資格学院との連携では、在学中のインテリアコーディネーター資格対策で、模擬試験や教材の提供を受けている。卒業後に建築士の資格を目指す卒業生に対しては、受験対策講座を特別価格で受講できるなど本校の卒業生ならではの特典がある。 ③⑦地域課題に向き合う人材の育成のため、学力だけでなく、学校行事や地域活動に取り組んだ主体性や経験をプレゼンテーションする形式を取り入れた入試制度であり、経済的支援(入学金免除、授業料半額免除)を通じた進学の後押しにもつながる内容としている。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 8 財務	◆ 対象： 授業：
委員意見なし	
学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 9 法令等の遵守	◆継続的に対応 対象：全学科全学年 授業：個人情報や著作権に関わる授業
③⑧（竹越委員）AI の使い方、特に AI を使う事のリスクを学べる事はとても良い。 ③⑨（川野委員）学生の将来に向けて著作権法は大事なので取り扱いについてしっかり教えてほしい。 ④⑩（中村委員）個人情報や著作権など、社会に出てからも今後必要なものになるため、学生一人ひとりがしっかりと理解し、学べる場は大切だと思った。 ④⑪（関根委員）個人情報保護と著作権については、繰り返し何度でも教えた方が良いと思う。	③⑧③⑨④④⑪ AI やデジタル技術が教育・表現・制作活動に広く取り入れられる現代において、学生が社会で信頼されるデザイナーとして活躍するためには、情報倫理（著作権・個人情報・AI リスク）の理解と実践力が不可欠である。こうした知識は一過性のものでなく、繰り返し段階的に学ぶ必要も感じている。連携課題では、機密性の高い情報を扱うこともあるので、理解を深めることが必要である。また、学生指導の前提として、教員側が最新の著作権・AI 活用リスクに精通しておく必要もあるので、常勤職員のリテラシー向上のため、著作権関連のセミナーや出張講座などの機会がある場合には、積極的に参加している。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 10 社会貢献・地域貢献	◆継続的に対応 対象：学校 授業：企業等と連携した課題に関わる授業
④②(岡田委員)連携する企業・団体が増えている。地道な活動が成果に繋がっている。 ④④(鈴木委員)これだけ多くのイベントに関われることが素晴らしいと思う。 ④⑥(関根委員)企業・団体との連携は、社会貢献・地域貢献に必ず繋がっていると思う。 ④⑦(阿久津委員)各企業から依頼をされる側になり、地域に根付いた学校になっている。 ④③(竹越委員)企業との連携授業が充実しており、非常に実践的で良いカリキュラムが多いと感じた。学生の作る作品もレベルが高いので協力企業にとってもメリットがあると思う。 ④⑤(中村委員)様々な地域や企業・団体との連携は、お互いにとって良い刺激になり、良いと思った。	④②④④④⑥④⑦これまで地域の企業や各種団体との連携をひとつひとつ形にすることで、地域の中で依頼をされる側として信頼を獲得し、社会や地域の発展に貢献する教育機関として認知が着実に広がっていると感じる。今後も企業・地域団体との連携をさらに深化させ、教育の質向上と地域貢献の両立に努めていきたい。それが地域社会との結びつきを強化し、学校が地域に根づく存在となる礎となると思う。また、高校生やその保護者、高校の教諭にも伝わる形で見える化することで募集にもつながると考える。 ④③④⑤多様な地域・企業・団体との連携を通じて、学生は社会や地域の課題を肌で感じる事ができ、非常に実践的に作品制作に取り組んでいる。これらの経験は学生の社会貢献意識を高めると同時に、連携企業からも新たなアイデア創出の機会として大きなメリットをもたらしたと評価をいただけている。